



中里高校新聞

発行:青森県立中里高等学校
住所:青森県北津軽郡中泊町
大字高根字小金石567
電話:0173-58-3149

一学年インターンシップ——貴重な就業体験——



令和二年九月一日(火)から三日(木)までの三日間、本校二年生十名は、地域の十箇所及び事業所でインターンシップ(就業体験)に臨んだ。

- 株式会社マエダ 中泊店
- 社会福祉法人 清隆厚生会 ことども園こどもり
- 社会福祉法人 内湯療護園
- 中泊町役場
- つがる西北五広域連合 かなぎ病院
- 社会福祉法人みちのく会 中里ことども園
- 中泊町総合文化センターバルナス (中泊町教育委員会)
- 中泊町特産物直売所「ビュアー」株式会社 アクトフラン
- みどりの風ことども園あとも
- 株式会社コメリ コメリハード&グリーン 中里店

インターンシップは、生徒たちの職業観・勤労観の醸成に計り知れない恩恵をもたらすものであり、生徒たちが主体的に進路を選択する態度を養う絶好の機会である。



白濱校長は、「何かとお忙しい時期にもかかわらず、本校生徒のために貴重な時間をさいていただき、深く感謝申し上げます」と各事業所に対する感謝の言葉を語った。

インターンシップ後の生徒たちの変容が楽しみだ。

購買部 ナカコウのオアシス

中里高校には、昼の十五分間だけ開店する購買部がある。

生徒玄関を入ると、正面にある黒板の左側に、白いシャッターの下りたスペースがある。そこがナカコウの購買部だ。中泊町薄市(うすいち)の老舗スーパーマーケット「サンマー」さんが、生徒の(職員も)喜びそうな商品をたくさん運び込み、出張販売してくれるのだ。

四校時終了の少し前、ガラガラ、ガラガララッとして、シャッターの開く音が響くと、生徒は(職員も)すっか



薄市のサンマー

り浮き足立ってしまう。授業終了のチャイムとともに、教室から一人、二人と生徒たちが(職員も)集まってくる。白を基調としたスペースで、店員さんと生徒たち(職員も)の間に実に明るく、楽しいなやりとりが交わされる。「ナカコウ生は可愛い。先生たちもみんな面白い」と店員さん。十五分間だけ開店する購買部。しかし、生徒と職員の記憶に、ずっと残っていく場所である。



中泊町「少年の主張大会」



大好きなクラスと私の将来
三和 美優

私が在籍する中里高等学校の二年生は十人です。この十人には一人一人個性があります。

令和二年八月二八日(金)、中泊町総合文化センターパルナスにて第八回中泊町「少年の主張大会」が開催され、小学生、中学生、高校生合計九名が、少年ならではの視点による瑞々しい「主張」を披露した。

本校からは二年生の三和美優(みわ・みゆ)さんがエントリー。九番目の最後の発表となった三和さんの主張は、「取り」にふさわしい感動的なものであった。以下に発表原稿全文を掲載する。

竣斗は、クラスのムードメーカーで、ミニオンが大好きです。海里は、熱血漢で頼りになります。想は、何事にも人一倍熱心に取り組み頑張り屋です。桃加は、いつも笑顔で、話すと楽しいです。由希菜は、すごく絵がうまくて、とても優しい人です。明香里は、まじめな人柄で、部活動ではバレーボールの練習を頑張っています。和葉は、クラスで一番頭が良く、みんなをまとめるのが上手です。茉莉菜は、バレーボールがうまくて、話しやすい人です。麻耶は、どんな時でも冷静で、優しい人です。

みんなの考えがなかなか合わなかったり、誤解して相手の態度を不快に思ったり、自分の思いをうまく伝えられず苦しんだり、担任の先生と一緒に何度も何度も話し合っていて、少しずつ理解し合ってきました。

昨年の学校祭の準備で、ダンス練習をしていた時のことです。昨年はアニソン、ジャニーズ、K-POPを踊りました。学校祭の少し前には曲も決まっていました。私はダンスは好きだけれど、実際に踊るのは苦手なので、毎日少しずつ練習をしました。学校祭が近くなると、フォーメーションを確認しながら、みんなが実際に踊りを合わせてみました。でも、私は周りの人のようにうまく踊れませんでした。何度練習してもうまくいきません。私は他の人の目を気にするようになり、練習してききました。「練習してききました?」そう聞かれると、責められているように感じました。自信が無いため、萎縮していつそううまく踊れません。うまく踊れない自分に腹が立つ

て、悪いことばかり考えてしまいました。私以外にもうまく踊れない人がいます。自分よりもうまく踊れない人に対して、強く非難してしまいました。クラスの雰囲気が悪くなると、「ダンスの得意な人も、不得意な人も、認めてあげなければいけないんだよ。」と話してくれました。それから、クラスの雰囲気が変わりました。ダンスのうまい人から「うまく出来ないところは教えてもらって、丁寧に教えてもらって、だんだんと出来るようになってきました。他の人の目が気にならなくなり、練習を重ねて、学校祭では無事に成功させることができました。

私はこの経験から思ったことがあります。人には得意、不得意があるということです。例えば絵がうまい人もいれば、下手な人もいます。歌が好きな人もいれば、嫌いな人もいます。これも一人一人の個性だと改めて思いました。たった十人のクラスですが、一人一人のことを理解しないと、うまくコミュニケーションを取ることも出来ません。いつも阿部先生が「個性を大切にしよう」と言っていることの意味がやっとわかりました。十人のクラスだからこそ、他を認めなければいけないということもわかりました。このクラスだからこそ、ずっと一緒にいたいけれど、卒業すればみんなバラバラになってしまうんです。だから、たくさん思い出を作っていきたいです。このクラスのみならずに出会えたことで、将来の夢を決めることができました。

私の将来の夢は、保育士です。もともと子どもと遊んだりすることが好きでした。中学三年生の時に、こども園に行ったときのことを思い出します。実際に園児と接していく中で、ブロックで遊ぶのが好きだったり、おしゃべりが好きだったり、しゃべっていたり、色を塗るのが好きだったり、色々な子どもがいました。それは、今のクラスのみならず、様々な園児と出会った経験と重なりました。様々な個性と出会い、コミュニケーションを身につけていく幼児たちを、見守り、導いていきたいと強く思います。

クラスのみんなへ、これからも色々なことで迷惑をかけると思うけれど、よろしくね。阿部先生、太田先生、先生方、夢をありがとう。ごさいます。竣斗、海里、想、桃加、由希菜、明香里、和葉、茉莉菜、麻耶、これから卒業するまで、このままのクラスでいようね。誰一人欠けることもなく、みんな、ありがとう。大好きだよ。

